

文化・芸術

「岡田彦太郎、文太郎父子像」

1887年ごろ、ガラス湿板
10・7号×7・5号（個人蔵）

島 隆（1823～99年）

大川美術館では今年も、7日から「桐生のアーティスト2023 KIRYU Days」を開催します。そして今回は、同時開催として「特集展示・桐生のアーティスト大収穫祭」と題し、これまでこのグループ展に参加したアーティストたちの作品とともに、桐生の近代、現代の美術の礎をつくった人々の作品も紹介します。

その嚆矢（こうし）となるのが、今回紹介する島隆です。すでに広く知られるように桐生に生まれた島隆は、幕末、明治維新期の画家、写真家として知られる島霞谷（1827～70年）の妻であり、日本で最初の女性写真師です。今年、生誕200年にあたることから、市内の所蔵家の方々のご協力により貴重な写真5点を特別に展示することになりました。

19世紀中ごろに欧州で発明された「写真」は、幕末期に日本にももたらされました。当時は、新しい技術であり、同時に迫真性という視覚の革新でした。撮影術を学んだ島隆は、夫の急逝後郷里に帰り、桐生の人々の姿を写真に残したのです。

（田中）

《名画の扉》

大川美術館特集展示「桐生の
アーティスト大収穫祭」から

